

SDGs スタディーツアー for kanjo

SDGs を見つけた充実の 4 日間

Report 2019.



プロジェクトを鍛える

課題を発見し、考え抜く

立命館大学をはじめ、大津市のSDGsに関する取り組みを知ること自分たちの住む地域の社会課題に対する「ちょっとした変化」に気づけるようになることがスタディーツアーの目的です。さらに、そこから自らアクションを起こすことができる「プロジェクト」を生み出すきっかけや自分が持つプロジェクトを鍛える貴重な機会をこのスタディーツアーで提供します。

目次

SDGs スタディーツアーとは	P 4
開催概要	P 5
フィールド紹介	P 6
プログラム詳細	P 7-11
プロジェクト紹介	P 12-13
学生コーディネーターの声	P 14
先生からのメッセージ	P 15



SDGs スタディーツアー

フィールドワークを通して SDGs 達成・社会課題解決を目指す



1

SDGs 最先端都市を
フィールドワーク



2

立命館大学の研究者・学生
によるコーディネート



3

マイプロジェクトを
伸ばすチャンス

開催概要

日時 2019年12月24日 - 27日
場所 立命館大学びわこ・くさつキャンパス、
立命館大学衣笠キャンパス、大津市内、京都市内
主催 群馬県立館林女子高等学校 女性学実行委員会
運営 一般社団法人SDGs Impact Laboratory
協力 立命館大学 Sustainable Week 実行委員会
後援 大津市、立命館SDGs推進本部

コーディネーター

上田 隼也（一般社団法人SDGs Impact Laboratory 代表理事）
山中 司（立命館大学生命科学部教授 / 国際部副部長）
中西 優奈（立命館大学生命科学部3回生 / SW 実行委員会 / TaBiwa+R）
岸本 俊輝（立命館大学理工学部3回生 / SW 実行委員会 / COMARS）
豊田 真彩（立命館大学食マネジメント学部1回生 / SW 実行委員会）
多田 圭吾（立命館大学映像学部1回生 / SW 実行委員会 / Entervibe）
徳田 祥吾（立命館大学理工学部2回生 / SW 実行委員会）



RITSUMEIKAN UNIVERSITY

立命館大学

びわこ・くさつキャンパス

びわこ・くさつキャンパスは、立命館大学 Sustainable Week 実行委員会の活動拠点で、滋賀県草津市に所在しています。理工系の学部が中心となっており、食マネジメント学部が2017年に開設されました。

衣笠キャンパス

衣笠キャンパス

京都市の西北に位置する衣笠キャンパスは、文系の学部を中心にこのツアーで撮影の協力を頂いた学生が所属する映像学部があります。2019年度秋 semester から「SDGs 表現論」が開講されています。

KYOTO

京都

「全国市区・サステナブル度・SDGs 先進度調査（日本経済新聞）」にて1位に選ばれた。歴史的、文化的な遺産だけでなく、50万人以上の学生も住むような「学生のまち」でもあり、京都・関西の学生のSDGsネットワーク形成を目的とした「みやこ KAMADOKI プログラム」も実施されました。

OTSU

大津

「住み続けたいまち」という将来像を描き、滋賀県に続き一早く市政にSDGsを活用することを表明しました。琵琶湖を始め環境への高い意識、667年に都が置かれて以来の歴史、ベッドタウンとしての発展という過去から続く財産を生かしながら、未来に向け、自動運転といった最先端の取組、女性活躍の取組などを進めています。

2019.12.24 18:00 - 20:30

Day
1

ドキドキの4日間のはじまり

@ 立命館大学びわこ・くさつキャンパス



オリエンテーション

ついに始まったSDGsスタディーツアー。まずは、自己紹介とSDGsスタディーツアーについての説明を行いました。その後は、高校生から現在、取り組んでいるプロジェクトの紹介、翌日からのプログラムに向けたスタディーツアーで学びたい事を大学生と共有しました。



クリスマス交流会

立命館大学 Sustainable Week 実行委員会に関わっている学生も含めて、クリスマスパーティーを行いました。ビンゴなどのレクリエーションも行い、大学生と親睦を深めました。

ビンゴの景品が滋賀県の特産品であったり、立命館大学の学生が取り組むプロジェクトについても知ることができる機会となりました。

2019.12.25 9:30 - 13:30

Day
2

大津ってどんなところ？

@ 近江神宮・近江勸学館



袴着付け



かるた体験



大津 SDGs レクチャー

「近江神宮(おうみじんぐう)」内を、袴の着付けを終えた生徒のみなさんと散策しました。その際、大津市 観光振興課 清水祐太郎氏、佐藤夏姫氏より、近江神宮が日本で最初に時計を採用した天智天皇を祀る神社であることや、かるたの聖地であることを説明していただきました。

また、かるた名人を講師としてお招きして、競技かるたの体験を行いました。なかなか着る機会のない和服に身を包みながら、本格的なかるた体験を楽しんでいる様子が見られました。

大津市 企画調整課 中谷祐士氏と人権・男女共同参画課 秋山由貴子氏より、大津市の SDGs の捉え方や、自動運転やプラゴミ削減、女性活躍推進の取り組み紹介をして頂きました。

これらの紹介を元に意見交換をしました。

2019.12.25 14:30 - 21:00

キャンパスライフを体験

@ 立命館大学びわこ・くさつキャンパス



立命館大学生命科学部
山中司 教授が責任者で
あるプロジェクト発信型
英語 (PEP) の授業に参加
しました。この授業では、
受講生が自身の興味関心を
5分間で発表していました。
高校生は積極的に英語で
質疑するなど、学びの姿勢
が伺えました。



びわこ・くさつキャンパス
を Sustainable Week 実行委員
会オリジナルのキャンパス
ツアーで案内しました。

実行委員会の活動拠点から
はじまり、新しいものづく
り拠点の AIOL (All In One
Laboratory)、授業で使う施設
などを巡ることで、立命館
らしさを体験してもらうこと
ができました。



学校法人立命館 仲谷 善雄
総長 (立命館 SDGs 推進
本部長) との対談。11月
に開催されたインパクトゼミ
に登壇した女性学実行委員
会の4名の取り組みを
「マイ SDGs 宣言」として
まとめ、紹介しました。

また、当日開催されてい
たイベントにて研究・開発
中のロボットを紹介して頂
きました。



大津市の SDGs の取り組み
を知り、自分たちの住む群馬
県や館林市でどのように活か
すことができるのか、振り返
りをしました。

得られた情報をもとに
自分のプロジェクトに落とし
込むワークショップを行う
ことにより、プロジェクトの
方向性をより明確にすること
ができました。

2019.12.26 9:30 - 17:30

Day
3

京都で見つけた SDGs

@ 立命館大学衣笠キャンパス・京都市内



パイオニア講演



京都フィールドワーク



振り返りワークショップ

立命館大学女子卓球部監督の川面 創さんによる「これからの社会に求められる人材」や「自分のこれからの生き方」についてのレクチャー、さらに衣笠キャンパスを案内して頂きました。

川面さんは、大学職員時代に当時学生だった上田さんを指導されていたそうです。

自分から「Discover = 発見する」をテーマに、大学生メンターと共にフィールドワークを実施しました。プロジェクトごとに5つのチームに分かれ、解決したい・取り組みたい社会課題に基づいた場所へ行き、インタビューを行ったり、京都市の課題について調査しました。

フィールドワークの振り返りを、個人・チームで行った後、他チームでペアインタビューを行いました。実際に体験して得られた気付き・学びを自分の言葉で伝えることができました。

京都で発見した課題を解決するために、自分のまちで取り組めることを考えるきっかけとなりました。

2019.12.27 9:30 - 12:30

Day
4

あっという間の4日間

@ キャンパスプラザ京都



プロジェクトメンタリング

大津市に比べて自主性がかなり強かった京都市のフィールドワークでは、普段自分たちが学んでいる以上の情報に触れたと思います。

こんな課題があるんだ、こんなユニークな取り組みがあるんだと感心しているだけでは、マイプロジェクトには繋がりません。学んだことをいかに早く、マイプロジェクトに繋げることができるか本当に問われた貴重な時間でした。



4日間の成果発表

フィールドワークやワークショップでの経験や出会いがあり、良い刺激をたくさん受けた4日間でした。最後の感想発表では、自身の成長を感じたという声を多く聞くことができました。

感じたことや気づき・学びはそれぞれ違って、実際に自分の目で見えて、触れて感じた社会課題から「わたしのSDGs」を見つけることができたのではないのでしょうか。

館林の女性学

女性学実行委員会は、2019年4月に設立された女性の視点からSDGs達成に向けたアクションを起こす委員会です。

女性学では、男女の幸せを分けて考えるだけでなく、人としての幸せを考えます。

総合的な探究の時間では、「女性の生き方探究」について取り組んでいます。

日本の水と尊さ



岡 彩海
柏瀬 優花
丸山 友彩

私たちは『日本の水の尊さ』をテーマにプロジェクトを行っています。

まず大津市で行われている《ワンウェイプラスチックごみの削減》を私たちが工夫して地元でも行えばSDGsのゴール6,14を達成できるのではと考えました。また、フィールドワークでは《疏水物語》という10年保存可能の水を見つけました。これを発展途上国に輸出すればゴール1,3を達成できます。さらに日本の水の素晴らしさを世界に発信することができると考えます。今後このプロジェクトでは日本の水は素晴らしいことをもう一度わかってもらうため、今までにはなかった斬新なデザインのポスターを作り発信したいと考えています。

ジェンダー



田沢 愛
吉羽 咲良
山田 香月

私達は常識となった男女の区別をテーマに男女やジェンダー平等についてプロジェクトを進めています。ツアーでは主に働いている人の男女比やトイレ標識を調査しました。そこで、海外と日本のトランスジェンダーに対する理解の違い、トイレ標識ではトランスジェンダーの貼り紙が男性用トイレにしかなかったことに気づきました。

館林市の多目的トイレの標識を変えることや育MEN制度を取り入れる提案、トランスジェンダーの理解度を深めるためにわかりやすい日本語作り、SNSでの活動発信をしていくことがこれからの目標です。



小川 愛海
竹村 文希
佐藤 伶香



廣町 佳苗
門井 陽奈
越澤 季穂
松井 優希



石川 夏渚
高瀬 琉那

私たちは人口減少と空き家問題をテーマに取り組んでいます。

スタディーツアーでは、空き家カフェ「itonowa」へ行き、インタビューをしてきました。そこで学んだことは、町を活性化するために地域の人と協力し、空き家の特徴を生かしたリノベーションをすることが大切ということです。

今後は地元の空き家を活用し、今までになかった場所や地域の人達が何回も来てくれるイベントを企画することを目標に活動していきたいです。

私たちはプラスチックによる環境への影響をテーマにプロジェクトを行っています。

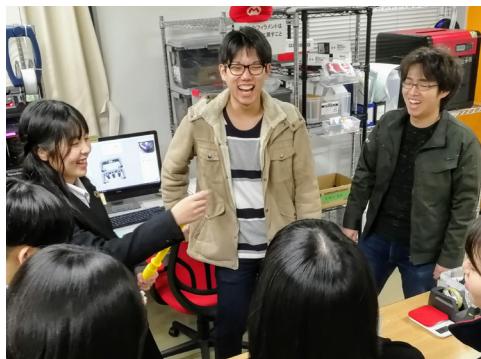
日本と海外の違いを知るため、ツアーで神社に観光で訪れた海外の方々にインタビューをしました。殆どの国はゴミ箱にゴミを捨てる習慣があることが分かりました。しかし、日本はゴミ箱の数が少ないなどの理由から道路にゴミ捨てをする人がいることが分かりました。

私たちはこれからゴミ箱が設置されるメリットとデメリットを考えて、学校でゴミの捨て方を意識させるような取り組みをしていきたいと思っています。また企業にもインタビューをしていきプラスチックの知識を深めていきたいです。

災害とジェンダー班では、災害発生後の避難所で多様性配慮を達成させることを目的として活動をしています。京都市男女共同参画センターに災害時の対応について取材をしたところ、実際に国際から男女一対一で運営をするようマニュアルが出ているものの、現状は出来ていないということを知りました。

今後は地元でソフト整備を進めつつハード整備を成り立たせること、また、災害発生後の対応について市と共に考えていくことに焦点を当てて活動していきたいです。

学生コーディネーターの声



自分の専門を超えて ネットワークを広げる

スタディーツアーでは、様々な分野に触れることで「新たな気づき」があったのではないのでしょうか。専門を超えたからこそ得られたつながりは、きっとみなさんの助けになるはずです。今後もネットワークを広げてみてください。そうすれば、可能性は無限大になるはずです。

岸本 俊輝
(理工学部3回生)

完璧にこだわらず プロジェクトを発信する

私自身 PEP を受講して、プロジェクトを立ち上げ発信した経験が、マイプロジェクトに取り組む基礎となっていると感じています。この4日間で気づきや学び、そしてマイプロジェクトを発信し、周りを巻き込みながら皆さんの活動がますます発展することを期待しています。

中西 優奈
(生命科学部3回生)

私の SDGs を見つけて アクションを起こす

スタディーツアーでは、新たな発見をマイプロジェクトにつなげて考える機会がたくさんあったと思います。今後は、そのアイデアを実現する時です。アクションを起こすことは一番難しいと思いますが、まず1歩。みなさんの今後の活動を楽しみにしています。

豊田 真彩
(食マネジメント学部1回生)

立命館大学 生命科学部教授 /
国際部 副部長

山中 司

いきなり発信、
もつと世界に
目を向ける。

群馬県立館林女子高等学校 教頭

高橋 みゆき

自分で成長を
実感できたこと
がよかった。

先生からの メッセージ

課題を発見する
ことの重要性
を体感できた。

群馬県立館林女子高等学校 教諭

赤井 恵美子

4日もあれば
明らかに
成長する。

(一社)SDGs Impact Laboratory 代表理事

上田 隼也

SDGs で広がる わたしたちの未来



お問い合わせ

一般社団法人 SDGs Impact Laboratory

HP : <https://www.sdgimpactlab.org/>

E-mail : info@sdgimpactlab.org



ツアーの様子

<https://youtu.be/BytAugvcVIQ>

2020 年 1 月 6 日 (月) 初版発行